

(様式1)

個別施策評価調書

主管部	政策イノベーション部	
関係部		

基本施策	IV-11 科学技術をまちづくりにいかす
個別施策	② ロボットの街つくばの推進
個別施策の方向	モビリティロボット実験特区や国際戦略総合特区等の活用を通じて、ロボットの実用化の促進や人材育成、ロボットを活用したまちづくりを行い、超高齢社会及び低炭素社会への対応、観光等の地域活性化に貢献する。

決算及び事業費内訳 (単位：千円)										
H27年度	決算	事業費	15,500	人件費	19,011	事業コスト	34,511			
	事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	0	一般財源
H28年度	決算	事業費	16,928	人件費	9,467	事業コスト	26,395			
	事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	0	一般財源
H29年度	決算	事業費	17,489	人件費	11,608	事業コスト	29,097			
	事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	0	一般財源
H30年度	決算	事業費	9,390	人件費	11,517	事業コスト	20,907			
	事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	0	一般財源

市民満足度 (市民意識調査)	H27年度	H29年度	前回比
つくば市の現状やまちづくりへの取組について	48.9%	46.3%	-2.6%
40) ロボットの街つくばの取組			

平成30年度つくば市行政経営懇談会 評価結果 (平成27～29年度実績)	
総合評価	B 施策について成果が確認でき、更に向上させるために一部改善が必要であると判断される。
提言	<p>「ロボットの街つくばの推進」事業というからには、実験だけでなく、市民に成果がわかりやすく見えるような形で、工程が示され、成果が市民生活にどう役立つのかというようなことを考えて事業を推進されたい。そのときに、セグウェイだけでなく、高齢者や障害者による利用、観光といったようなある程度ターゲットを絞った形でロボットを活用する、社会的に実装するというような観点で進められたい。</p> <p>事業が停滞しているという意味ではないが、事業としては推進する方向性を十分見直して、目標に向かって一層の推進を目指されたい。</p>

施策の 取組概要	<p>つくばモビリティロボット実証実験推進協議会を中心にモビリティロボットの公道走行実証実験を進めるとともに、信号情報受信による安全な交差点横断の検証を進めることを目的とした「歩行者用信号情報発信システム」の動作検証の公開など、モビリティロボット等の社会実装に向けた取組を実施。</p> <p>つくばチャレンジ2018、セグウェイ試乗会等のロボットに関するイベント開催を通じて、市民等が最先端のロボット技術等に触れられる機会を提供する。</p>
施策の 成果	<p>モビリティロボット等の公道実証の推進については、延べ81日、1,965kmの実証実験の中で、車道でのモビリティロボット走行を日本で初めて実現させ、モビリティロボットの新たな活用シーンの拡大に寄与することができた。「歩行者用信号情報発信システム」についても日本初の取組であり、来るべき自動運転社会の到来を見据え、機体側の安全な走行をインフラ側から支援するための仕組みづくりに向けた検証環境の構築に役立った。</p> <p>また、ロボット等のイベントの開催については、ロボットに係る研究者等のネットワークの構築や人材育成、「ロボットの街つくば」のプロモーションを図ることができた。</p>
課題と 改善目標	<p>他機関・他自治体等とも連携し、自動走行実現のための法改正の働きかけやモビリティロボットの通行を可能にするための基準緩和に継続的に取組んでいくことが必要である。</p> <p>そのため、国のMaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）の取組との連携や、他自治体、大学・研究機関、製品化や新たなサービスの創出を目指す民間事業者等との新たな連携、既存体制の見直しなど、モビリティロボットの社会実装に向けて推進体制を強化していく。</p>

自己評価（所管部署評価）		
自己評価	B+	施策について成果が確認でき、さらなる向上が期待できると判断される。